

ソメイヨシノの名付け親

松村 任三

1856 - 1928

松村任三は、水戸藩松岡領中山家臣松村鉄次郎の長男として、高萩市下手綱に生まれました。36歳で理学博士となり、東京帝国大学の植物学教室二代目主任教授や東京帝国大学附属小石川植物園初代園長などを勤め、現在の東京大学理学部植物学教室の基礎を築きました。

生涯にわたり150種以上の新植物を発見し、これらに学名を与えました。代表的なものとしてソメイヨシノ(バラ科、*Prunus yedoensis* Matsum.)があります。

また、当時の日本の植物をまとめた「日本植物学名彙 前編：漢名の部、後編：和名之部」(1884年)や「帝国植物名鑑 顕花部前編・顕花植物後編・隠花部」(1905年)の他、多数の著作物があり、日本の植物分類学の基礎を築きました。1876年には、エドワード・S・モースの助手として大森貝塚の博物館調査にも参加しました。

ソメイヨシノを命名する

これまでに知られていない植物に名前をつける場合には、まず名前をつけた標本を博物館などに保存(タイプ標本)し、次にこの標本の形態的な特徴をラテン語で書いた文章(記載文)を専門の雑誌に発表することが必要です。

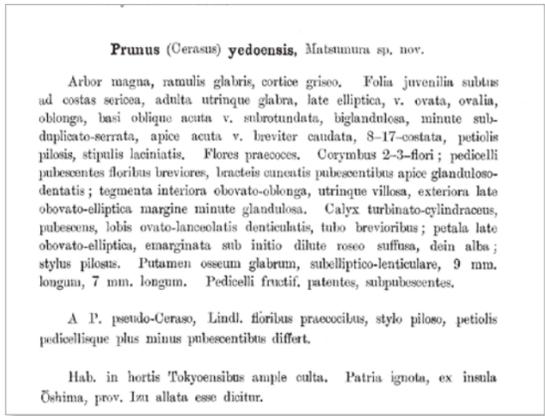


松村博士 出典：高萩市歴史民俗資料館



松村博士が採集したソメイヨシノのタイプ標本 出典：高萩市歴史民俗資料館

植物学雑誌15巻174号(1901年)「日本産サクラ属の新種」 松村 任三



植物学雑誌に掲載したソメイヨシノの記載文です。

植物学雑誌15巻174号 ソメイヨシノ記載文和訳

ソメイヨシノ 新種：高木、枝は無毛で、樹皮は灰色。若い葉は裏面の主脈に毛があり。成葉は両面とも無毛で、広い卵形から卵形、長楕円形、基部は斜めに切形から卵形、2つの蜜腺、重鋸歯、先端は鋭頭から尾状、8-17の脈。葉柄は多毛、たく葉は切れ込みがある。開花は早い。2、3個の花からなる散房花序で、小花枝は多毛、包葉はくさび形で毛がる。がくは倒円錐形で毛あり、裂片はやり状で、鋸歯あり；花弁は倒卵形から楕円形、先端は凹形、薄い桃色でその後、淡白色になる；花柱は多毛・実は骨質で無毛、レンズ状の楕円形、長さ7mm~9mm。実をつけた小花枝には開出毛あり。

分布：東京で広く栽培されている。原産地は不明であるが、伊豆地方の大島から持ち込まれたと言われている。

代表的な著作物

松村博士の著書は多数ありますが、次の2つは今でも貴重な文献となっています。

また、専門の植物分類学に加えて、教科書や漢文についてなどの著書があり、博士が偉大な分類学者であったことがわかります。



左：日本植物学名彙(後編：和名之部) 1884年 ※2分冊のうちひとつ
右：帝国植物名鑑 上巻 顕花部 1905年 ※3分冊のうちひとつ

西暦	年号	
1856	安政三	松村任三誕生。多賀群下手綱村にて。幼名は辰太郎。
1864	元治元	就将館に入学。
1870	明治三	大学南校(東京)に入学。
1877	明治一〇	東京大学植物園に勤める。動物学のモースに随行し海洋生物採集、矢田部良吉に随行し植物採集を行う。
1883	明治一六	東京大学助教授に就任。『植物採集及び乾腊法』を著す。
1884	明治一七	『日本植物学名彙』(前編：漢名の部、後編：和名之部)『琉球植物説』を著す。
1885	明治一八	ドイツ留学へ出発
1886	明治一九	バイエルン王国ウルツブルグ大学にて学ぶ。『植物学語彙』、『理科大学標本目録』を著す。
1887	明治二〇	バーデン国ハイデルブルグ大学へ転学。
1888	明治二一	帰国し、理科大学助教授となる。(翌年、教授就任)
1890	明治二三	『植物分科覧要』を著す。
1891	明治二四	『実験植物学入門』、『植物の内容及生理』を著す。植物学教室二代目主任教授となる。
1892	明治二五	『植物学教科書』上巻出版。『和漢対訳本草辞典』を著す。
1893	明治二六	『植物学教科書』下巻出版。
1894	明治二七	『日光山植物目録』を著す。
1895	明治二八	『改正増補植物名彙』を著す。
1897	明治三〇	東京帝国大学附属小石川植物園の初代園長となる。『中等植物教科書』を著す。
1901	明治三四	『普通植物』を著す。
1902	明治三五	『植物の形態』を著す。
1904	明治三七	『帝国植物名鑑上巻 隠花部』を著す。
1905	明治三八	『帝国植物名鑑 顕花部前編』を著す。明治天皇に「食虫植物について」御進講。
1906	明治三九	スコットランドのアバディーン大学創立400年祭に東京帝国大学代表として出席、名誉博士の号を授かる。
1907	明治四〇	明治天皇御前にて、「サボテンの種類について」御進講。
1912	明治四五	『帝国植物名鑑 顕花部後編』、『新撰植物図編』を著す。
1915	大正四	大正天皇御前にて、「熱帯有用植物について」御進講。
1921	大正一〇	字源の『溯源語彙』を刊行。
1922	大正一一	東京帝国大学を辞任、同大学名誉教授を授けられる。
1928	昭和三	東京・本郷の自宅にて没。高萩市内の赤塚墓地に埋葬される。

高萩市公式HPより参照

桜について詳しく知りたい方へ

【桜の種類を調べたい方におすすめの本】

- 池田博・池谷祐幸・勝木俊雄 2016年『改訂新版日本の野生植物3バラ科』平凡社
- 大原隆明 2009年『サクラハンドブック』文一総合出版
- 勝木俊雄 2009年『日本の桜(フィールドベスト図鑑)』学研プラス
- 川崎哲也・田中秀明・大場秀章 2007年『新日本の桜』山と溪谷社
- サクラの品種に関する調査研究報告書編集委員会 1984年『日本の桜の種・品種マニュアル』日本花の会
- 林将之 2019年『樹木の葉実物スキャンで見分ける1300種類』山と溪谷社
- 藤原隆之 2023年『桜樹学・桜の世界1 サクラ属の解説 野生種編』このはなさくや園芸運営委員会
- 山本尚幸 2004年『週間日本の樹木02 ヤマザクラ』学習研究社
- 山本尚幸 2004年『週間日本の樹木04 サクラ』学習研究社

【桜の文化や歴史について調べたい方におすすめの本】

- 石井誠治 2015年『木を知る・木に学ぶ なぜ日本のサクラは美しいのか?』山と溪谷社
- 井筒清次 2007年『おもしろくてためになる桜雑学事典』日本実業出版社
- 井筒清次 2023年『桜の日本史年表：桜と日本人2000年の全文化史』河出書房新社
- 大津直光 1990年『国花さくら』暁印書館
- 勝木俊雄 2015年『桜』岩波書店
- 勝木俊雄 2018年『桜の科学 日本の「サクラ」は10種だけ? 新しい事実、知られざる由来とは(サイエンス・アイ新書)』SBクリエイティブ
- 栗田勇・久保田淳 1996年『これだけは見ておきたい桜』新潮社
- 近田文弘 2016年『桜の樹木学』技術評論社

桜の種類の記事については『日本の桜』(勝木俊雄 2009年)に従った。本企画展は、当館博物館長安嶋隆が担当した。なお、本パンフレットは安嶋隆が執筆し、林恵子・佐々木友が編集した。サクラの写真撮影や情報提供においては以下の方々にご協力いただいた。(敬称略、順不同)
高萩市歴史民俗資料館
薄葉真理子、岡本孝信、五次堅、川上仁司、郡司雅夫、小金沢かおり、古平均、斎藤由美子、坂野秀司、島根 栄、鈴木さちよ、照沼章弘、照沼めぐみ、橋本明子、原見子、松村順子

東海村歴史と未来の交流館 令和6年度春季企画展「さくら色・いろーみんなのさくらー」さくらMAP



見つけに行こう!
東海村の桜
Tokai village Sakura MAP

東海村歴史と未来の交流館

東海村村松 768 番地 38 TEL:029-287-0851 E-mail:syougaiakusyu@vill.tokai.ibaraki.jp
開館時間：平日9時~19時 土日祝日9時~17時 休館日：月曜日、祝日の翌平日

はじめに

さくら(桜・サクラ)はバラ科サクラ属の種類で、日本を代表する美しい花のひとつです。

江戸時代までは花見のサクラと言えばヤマザクラでしたが、江戸時代末期から明治初期には染井吉野が全国に広がっていきましました。現在は全国各地の学校、公園、お城などに植えられた染井吉野が花見の代名詞になっています。

日本におけるサクラの野生種はヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガン、マメザクラ、チョウジザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ、タカネザクラ、ミヤマザクラ、クマノザクラ、カンヒザクラなど11種類です。そしてこれらの野生種などを交配してできた園芸品種(栽培種)は数百種類あるとも言われています。

東海村内では3月上旬の河津桜に始まり、4月の染井吉野やオオシマザクラ、5月中旬の八重桜類まで約3ヶ月間、いろいろな種類の花見を楽しむことができます。

村内の桜とその仲間

● オオシマザクラ(大島桜)



関東地方南部に分布する。葉が展開する前に白色の大きな花をつける。花は桜茶、葉は桜餅に利用されている。村内各地に植えられている。

● オオヤマザクラ(大山桜)



北海道、本州、四国に分布する。エツヤマザクラ(蝦夷山桜)とも言う。北海道から東海村に移住してきた住民は、故郷への思いをこめて移植したと言われている。紅色の豪華な花が美しい。

● 河津桜(かわづざくら)



カンヒザクラとオオシマザクラの種間雑種と考えられている栽培品種。濃い紅色の花をつける。村内数カ所に植栽されている。桜花見はこの種類から見られる。

● 寒桜(かんざくら)



カンヒザクラとヤマザクラの種間雑種と考えられている栽培品種。村内のサクラでは最も早くから咲き始める。石神小学校の校庭に植えられている。

● 染井吉野(そめいよしの)



エドヒガンとオオシマザクラの種間雑種と考えられる栽培品種。江戸時代後期の染井村(現在の豊島区駒込)が発祥の地といわれ、明治時代に全国に広まった。生育が早く、華やかな花をつけ、今でも桜といえばこの染井吉野をいう。

● 日立紅寒桜(ひたちべにかんざくら)



ヤマザクラとカンヒザクラの種間雑種と考えられる栽培品種。2006年(平成18年)に日立市固有の桜として農水省より品種登録された。極早咲きで、2月から開花し、3月上旬が見頃。須和間の住吉神社に植えられている。

● 八重桜(やえざくら)



八重咲きになるサクラの総称。多くの品種があり、村内の学校、公園などに植えられている。牡丹桜(ぼたんざくら)と呼ばれることもある。御衣黄(ぎよこ)などは花弁が淡緑色でわかりやすいが、その他の品種名の識別は困難である。

● ヤマザクラ(山桜)



本州、四国、九州に分布する。野生の桜の代表種で、江戸時代までの花見といえばこのヤマザクラのこと。村内各地の林に群生している。

● 陽光(ようこう)



カンヒザクラに「天城吉野」という品種を交配して作り出された栽培品種。1981年に品種登録。紅色の大きな花が特徴。村内各所に植えられている。

東海村の桜MAP



桜の種類

- 染井吉野(ソメイヨシノ)
- ヤマザクラ(山桜)
- オオシマザクラ(大島桜)
- 枝垂桜(シダレザクラ)
- 陽光(ヨウコウ)
- 河津桜(カワヅザクラ)
- その他の桜(八重桜を含む)

大神宮・村松虚空地蔵堂

松村晴嵐の碑
鉄塔
佐藤佐太郎の歌碑
三重之塔
大神宮拜殿
本堂
孟宗竹の道
村松山虚空蔵堂碑

サクラ?いえ、違います。サクラに似た仲間たち

- モモ
- ウメ
- イヌザクラ
- スモモ
- アーモンド
- ウツミズザクラ
- ハナモモ

● 枝垂桜(しだれざくら)



エドヒガンの栽培品種。古くより全国各地で栽培されており、国や県の天然記念物に指定されていることが多い。花が紅色のものは紅枝垂桜と呼び、両品種ともに村内各地に植えられている。

● 四季桜(しきざくら)



マメザクラとエドヒガンの種間雑種と考えられる栽培品種。花は春と秋から冬にかけて2回咲く。村内では数カ所の個人宅に植えられている。

※野生種はカタカナ表記、園芸種は漢字表記にしています。